

《 学部消息 》

教 授 会 メ モ

元年3月15日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 物品寄附の受入れについて
(4) 昭和63年度卒業者の決定について
(5) 学部学生の休学について
(6) 学部研究生の入学について
(7) 学部研究生の期間延長について
(8) 平成元年度受託研究員の受入れについて
(9) 平成元年度私学研修員の受入れについて
(10) 平成元年度民間等との共同研究の受入れについて
(11) 人事委員会報告
(12) 会計委員会報告
(13) 企画委員会報告
(14) 理学院計画委員会報告
(15) 理学院計画第3次素案について
(16) 地球物理研究施設長の選出について
(17) 素粒子物理国際センター長の選出について
(18) その他

元年4月19日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 奨学寄附金の受入れについて
(4) 物品寄附の受入れについて
(5) 平成元年度私学研修員の受入れについて
(6) 教務委員会報告
(7) 人事委員会報告
(8) 会計委員会報告
(9) 企画委員会報告
(10) 理学院計画委員会報告
(11) その他

元年5月17日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 人事委員会報告
(4) 企画委員会報告
(5) 理学院計画委員会報告
(6) その他

理 学 博 士 の 学 位 取 得 者

〔平成元年1月30日付(8名)〕

専攻	氏名	論文題目
論文博士	光本茂記	室内実験による海陸風と斜面風に関する研究
論文博士	加藤辰己	サワオトギリ群の分類学的研究
相関理化学	桜井力	スズ(IV)カルコゲナイドの光物性の研究
論文博士	中村貴義	導電性ラングミュア-プロジェクト膜に関する研究
論文博士	安藤清	グラフと補グラフ
植物学	朴龍睦	海岸砂丘地におけるメヒシバとオヒシバの分布に関する生理生態学的研究
論文博士	青山隆	気相, 液相, 固相からの半導体結晶成長
論文博士	海津聡	多くの小さい穴の境界上に半線形境界条件を課されたポアソン方程式の解の漸近挙動

〔平成元年2月27日付(9名)〕

専攻	氏名	論文題目
論文博士	大鹿健一	クライン群の列の極限について
論文博士	伊藤和男	イオン打込みとアニーリングプロセスにより作成した高濃度ドーブSi薄層及び細線の電子局在の研究
論文博士	山谷純	トランスジェニック植物における植物RNAウイルスおよびウィロイド発現系の構築
論文博士	高松信彦	TMV-RNA非翻訳領域の解析及びTMV-RNAのベクター化
地球物理学	木川栄一	海洋地磁気異常を担う原因層について
論文博士	加藤茂孝	風疹ウイルスの生化学的および免疫学的研究
論文博士	渡部芳夫	瀬戸川-小仏-嶺岡帯の堆積盆発達史
論文博士	東海林まゆみ	定常波の分岐問題に対する分岐解について
論文博士	大枝一男	時間と共に境界が変化する領域における熱対流方程式の弱解と強解

〔平成元年3月16日付(10名)〕

論文博士	前田晴良	白亜紀後期アンモナイト; “ヨコヤマオセラス” 属と “キッチニテス (ネオプゾア)” 属の二型関係について
論文博士	榊剛	オゾンによる植物の初期傷害と膜脂質の代謝変動
論文博士	長谷川登志夫	シクロヘプタトリエンチオンの合成および性質
論文博士	江藤弘純	L-トリプトファン, ユビキノン-10, 1.5- α -置換イミダゾール誘導体の実用化を目指した合成研究
論文博士	須崎純一	岩石および鉱物の熱伝導率に及ぼす圧力の効果
論文博士	細谷睦	3次元インダクタンス計算
地球物理学	高柳昌弘	深海底堆積物中の希ガス
地理学	渡辺満久	東北日本の火山フロント沿いにおける, 活断層・火山の相補的分布と低地帯の分岐様式
同上	茅根創	琉球列島・マリアナ諸島における完新世の裾礁の発達
同上	山田晴通	わが国におけるCATV (有線テレビジョン) の存立基盤

〔平成元年3月29日付(1名)〕

論文博士	大島康裕	高分解能分光法と電子線分析法による分子および分子錯体の構造と分子内振動の研究
------	------	--

〔平成元年3月29日付(92名)〕

数学	山村健	Hilbert の既約性定理のある類似と打数体の分布
同上	有木進	退化ヘッケ環と退化q-シューア環の分解係数について
同上	松澤淳一	古典リー群の generalized exponents について
同上	黒瀬俊	双対接続とアフィン幾何
情報科学	吉田広行	拡張再帰グラフ型式にもとづくプロトコルの仕様記述法式
同上	太田克弘	k 連結グラフの非臨界部分グラフ
同上	鎌田富久	抽象データの図化に関する研究

専攻	氏名	論文題目
情報科学	木下佳樹	静的意味論へのモジュール構造の付加について
同上	白田由香利	拡張メニュー方式ソフトウェアのための自動生成方法論
同上	乃万司	幾何的作図, 制約, 及び伝播
同上	森継修一	数式処理アルゴリズムの研究
物理学	森茂樹	He, Ne, Ar 原子による低速陽電子の非弾性散乱
同上	鶴井博理	固相化DNAプローブの基礎と応用
同上	瀧田正人	神岡核子崩壊実験測定器による大気ニュートリノフラックスの実験的研究
同上	山田貢己	スピン1/2ハイゼンベルグ鎖の相関距離
同上	池上高志	免疫ネットワークのモデル: 抗原抗体複合体の役割
同上	石橋延幸	開弦理論の構築
同上	磯田和良	ショウジョウバエ胚の極性形成に異常を示す母性突然変異の生化学的研究
同上	岩野薫	共役高分子の格子の乱れと非線型励起
同上	小竹悟	超共形代数とその拡張について
同上	大槻東巳	有限シリンダー上の量子Hall効果における電子状態及び電流分布
同上	大野木哲也	異常U(1)ゲージ群のある四次元弦理論に於ける超対称性の破れ
同上	国場敦夫	$An^{(1)}$ に付随した新しい可解格子モデルの族
同上	小松晴子	希ガス-ハライド・エキシマー生成直後の内部状態分布
同上	後藤貴行	微粒子中の異常核スピン緩和
同上	下村裕	コリオリカ及びローレンツカを受ける剪断乱流の統計理論
同上	杉野修	リチウム金属超微粒子の電子構造と安定性
同上	田嶋直樹	原子核の非軸対称変形の自由度とK異性的崩壊
同上	堂谷忠靖	連星X線源からのX線強度の準周期的振動
同上	中川賢一	NH_3 分子の倍音振動における振動局在化
同上	中野愛一郎	電子液体の動的相関構造の研究
同上	中谷正吾	有限バンドポテンシャルによるパイエルス系の解析
同上	朴瑋宅	高温超伝導体関連物質の電子状態計算
同上	花井亮	DNA塩基配列の生物物理的研究
同上	星野勉	軽い中性子過剰核の殻模型による研究
同上	三木敬	$N=3$ 超共形代数
同上	宮澤透	一変数フォッカー・プランク方程式の理論
同上	室尾和之	レーザープラズマによる軟X線レーザー基礎過程の分光学的研究
同上	横道治男	電子核二重共鳴によるアモルファスシリコンおよびその合金系におけるダンダリングボンド中心の研究
同上	横山寿敏	ハバードモデルの変分モンテカルロ法による研究
同上	吉田篤正	「ぎんが」で観測されたガンマ線バーストのスペクトル構造の研究
同上	劉良鋼	カイラル $\sigma-\omega$ 模型における核物質の量子効果
同上	渡辺聡	化合物半導体中の遷移金属不純物の多重項構造
天文学	綾仁一哉	高分散分光観測による2型セイファート銀河の幅の狭い輝線の放射領域のガスの運動と構造の研究
同上	川邊幸子	連続波電波源いて座Aコンプレックスをとりまく分子ガスの開口合成観測

専攻	氏名	論文題目
天文学	茂山俊和	超新星の光度曲線の理論的モデル
同上	西川淳	太陽面精密測光観測装置の開発及び白斑・黒点の放射強度の観測
同上	吉岡論	爆発によって形成された宇宙論的衝撃波の衝突と宇宙の大構造の形成
同上	吉川真	カーウッドギャップにある小惑星の運動
地球物理学	井田茂	ケプラー粒子の衝突確率と惑星成長
同上	大谷晋一	地球磁気圏内における大規模沿磁力線電流系
同上	小村健太郎	オリビンのオリビンスピネル転移に伴う電気伝導度変化
同上	樋口知之	マグネトシースにおける磁場擾乱の定量的研究
化学	赤澤方省	金属表面上での低速イオンの中性化と反応
同上	岩田耕一	マイクロ秒時間分解赤外分光システムの開発とその応用
同上	浦野妙子	分光学的手法を用いたトランスースチルベンの光異性化反応の研究
同上	奥出幸二郎	光学活性ジアミン白金錯体の構造
同上	久保謙哉	ミュオンの化学的挙動の研究
同上	佐々木誠	抗腫瘍性クアシンノイド, プルセアンチンの全合成
同上	田原太平	過渡ラマン分光法による芳香族カルボニル化合物の最低励起三重項状態の研究
同上	中嶋敦	電子および原子の衝突によって誘起される化学反応の動力学—レーザー誘起蛍光法と分子ビーム法の応用
生物化学	丹治雅夫	魚類ペプシノーゲンの構造と機能
同上	荒川秀雄	α_2 マクログロブリンは、いかにプロテアーゼをトラップするか …トラップ仮設の具体像…
同上	河合剛太	転移RNAに含まれる修飾ヌクレオシドの動的構造と機能のプロトン核磁気共鳴による研究
同上	齋藤哲一郎	タバコモザイクウイルス病の外被タンパク質変異から見た分子遺伝学的解析
同上	宗行英朗	$F_0 F_1$ ATPase によるプロトン輸送に関する研究
同上	山梨裕司	血球系細胞における <u>lyn</u> 遺伝子産物の発現について
同上	渡辺嘉典	分裂酵母における減数分裂開始を決定づける <u>mei 2</u> 遺伝子の役割と発現制御
動物学	小村潤一郎	キンギョ培養細胞の特定遺伝子におけるポリミジニ量体の選択的修復
同上	林恵子	鳥類胚胃上皮の部域性の成立機構
同上	藤田敏彦	写真解析を通してみた日本産漸深海底棘皮動物の生態学的研究
植物学	竹重一彦	オオシャジクモにおける細胞内pH調節に関する研究
同上	酒井聡樹	カエデ属における分枝伸長様式の適応進化
同上	辛得龍	酵母におけるcAMPによる細胞増殖の調節
同上	デディ・ダルナエディ	ナガバノイタチシダ複合体(オンダ科)の分類学的研究
同上	光澤浩	酵母のアデニル酸シクラーゼに関する遺伝学的研究
同上	吉久徹	酵母液胞膜標識酵素 α -マンノシダーゼの遺伝子クローニングとその生合成過程の解析
地質学	山名智	Nd同位体組成から推定される珪長質地殻の進化—南韓半島及び西南日本内帯の比較
同上	児子修司	日本産デボン紀アクチノセラス目およびオルソセラス目について

専攻	氏名	論文題目
地質学	左 容 周	韓国、麟蹄-洪川地域に分布する花崗岩類についての岩石学、地球化学及び地球年代学的研究
同上	岡 本 隆	「日本石」の進化生物学的研究
同上	荻 原 成 騎	埋没統性作用における斜プロロル沸石-輝沸石の相変化
同上	清 水 以知子	応力に誘起される岩石の微細構造
同上	石 奉 出	東シナ海、黄海および大韓、対馬海峡における第四紀堆積過程、構造および海水準変動史
同上	塚 越 哲	介形虫 Cythere 属の生物史
相関理化学	関 根 政 美	ダイズ根粒菌の IAA 合成酵素遺伝子の単離
同上	石 田 俊 正	分子軌道の立体特性と結合性の解析
同上	高 増 正	強磁場下の 2 次元系の非線形伝導現象：QHE の破壊と負微分伝導
同上	堂 寺 知 成	一次元準結晶に関する自己相似多項式の研究
同上	中 川 将 司	共鳴ラマン分光法によるバクテリオロドプシンの光反応中間体の研究
同上	野 上 由 夫	有機超伝導体 β - (BEDT-TTF) ₂ I ₃ の圧力下の超格子構造
同上	星 野 正 人	ras 遺伝子産物 p21 とグアニンヌクレオチドの相互作用に関する研究

[平成元年 4 月 24 日付 (4 名)]

論文博士	中 山 昇	3 次元複素多様体の非特異例外曲線について
論文博士	岩 瀬 彰 宏	FCC 金属のイオン照射損傷における電子励起効果
論文博士	富 田 宏	深水動波の相互作用に関する理論的ならびに実験的研究
論文博士	増 田 耕 一	FGGE データによる 1 年間の全球熱収支・水収支解析

人 事 異 動 報 告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	助 教 授	清 水 洋	平元. 2. 16	昇 任	講師から
"	講 師	斎 木 幸一朗	"	"	助手から
中 間 子	客員助教授	森 義 治	"	併 任	本務：高エネ研 平元 3. 31 まで
化 学	"	卷 出 義 紘	平元. 3. 1	昇 任	アイソトープ総合センター教授へ
化 " 学	教 授	佐佐木 行 美	平元. 3. 31	停 年	
植 物	"	飯 野 徹 雄	"	"	
数 学	"	藤 田 宏	"	"	
生 化	"	岡 田 吉 美	"	"	
地 物	"	佐 藤 良 輔	"	"	
数 学	"	木 村 俊 房	"	"	
化 学	"	稲 本 直 樹	"	"	
情 報	助 教 授	榎 本 彦 衛	"	辞 職	
物 理	講 師	矢 崎 茂 夫	"	"	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
動物	講師	竹内重夫	平元. 3. 31	辞職	
物理	教授	有馬朗人	平元. 4. 1	昇任	東京大学総長へ
地物	研究	小口高	"	配置換	名大空電研教授へ
化学	助教授	吉藤正明	"	昇任	東北大教授へ
生化	"	猪飼篤	"	"	東工大教授へ
素粒子	"	武田広	"	"	神戸大教授へ
化学	教授	齋藤太郎	"	配置換	大阪大学教授から
数学	"	松本幸夫	"	昇任	助教授から
化学	"	岡崎廉治	"	"	助教授から
動物	"	塩川光一郎	"	"	九州大学助教授から
数学	助教授	長田博文	"	転任	奈良女子大学助教授から
物理	"	酒井英行	"	"	大阪大学助教授から
動物	"	八杉貞雄	"	昇任	講師から
人類	"	植田信太郎	"	"	助手から
物理	"	蓑輪真	"	配置換	素粒子センターから
伝子	"	米田好文	"	"	講師から
動物	講師	三谷啓志	"	"	助手から
"	"	藤原晴彦	"	転任	国立予防衛生研から
素粒子	客員教授	吉村太彦	"	併任	東北大学教授
"	"	戸塚洋二	"	"	宇宙線研究所教授
"	客員助教授	清水韶光	"	"	高エネ研助教授
中間子	"	森義治	"	"	"
"	客員教授	政池明	平元. 4. 16	"	京都大学教授
植物	教授	東江昭夫	平元. 5. 1	配置換	広島大学教授から

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
化学	助手	中井俊一	平元. 2. 27	休職	3. 3. 26まで
動物	"	赤坂甲治	平元. 3. 1	昇任	広島大学助教授へ
物理	"	木村芳文	"	休職更新	2. 2. 28まで
化学	"	中田賢次	平元. 3. 31	停年	
地質	"	原村寛	"	"	
物理	"	前田恵一	"	辞職	
生化	"	田澤一朗	"	"	
情報	"	石畑清	"	"	
数学	"	丸山直昌	平元. 4. 1	昇任	統計数理研助教授へ
"	"	上正明	"	"	京都大学助教授へ
情報	"	中原早生	"	"	広島大学助教授へ
化学	"	江川千佳司	"	"	宇都宮大学助教授へ
生化	"	須藤和夫	"	"	教養学部助教授へ

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
人 類	助 手	徳 永 勝 士	平元. 4. 1	配 置 換	附属病院助手へ
地 質	助 手	渡 部 芳 夫	平元. 4. 1	転 任	工業技術院へ
物 理	"	長 山 好 夫	"	休 職	3. 3. 31 まで
中 間	子	門 野 良 典	"	休職更新	2. 3. 31 まで
数 学	"	中 村 博 昭	"	採 用	
"	"	河 澄 響 矢	"	"	
"	"	石 村 直 之	"	"	
物 理	"	下 村 裕	"	"	
"	"	横 山 順 一	"	"	
"	"	生天目 博 文	"	"	
化 学	"	田 原 太 平	"	"	
"	"	久 保 謙 哉	"	"	
生 化	"	北 島 健	"	"	
地 質	"	荻 原 成 騎	"	"	
地 殻	"	石 橋 純 一 郎	"	"	
生 化	"	井 上 英 史	平元. 4. 16	"	
物 理	"	蓮 尾 昌 裕	"	"	
化 学	"	茅 田 博 一	平元. 5. 16	"	

(職 員)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	事 務 官	菅 澤 理 恵 子	平元. 3. 1	転 任	富山大助手へ
生 化	技 官	宮 崎 敏 夫	平元. 3. 31	定 年	
動 物	事 務 官	長 田 美 子	"	"	
鉱 物	用 務 員	梅 村 久 子	"	"	
植 物 園	技 官	甲 斐 正 人	"	"	
臨 海	用 務 員	石 渡 綾 子	"	"	
事 務 部	給 与 掛 長	星 圭 介	"	"	
数 学	事 務 官	齋 藤 智 恵 子	"	辞 職	
事 務 部	事 務 長 補 佐	蓮 見 公 一	平元. 4. 1	配 置 換	附属病院総務課課長補佐へ
"	"	土 居 喜 公	"	"	経理部経理課課長補佐へ
"	学 務 主 任	田 中 満 嘉	"	"	医学部学務主任へ
"	司 計 掛 長	渡 邊 隆 夫	"	"	経理部主計課予算第一掛長へ
"	経 理 掛 主 任	青 木 道 子	"	"	附属病院管理課給与掛主任へ
植 物	事 務 官	山 田 理 子	"	"	附属図書館情報サービス課へ
事 務 部	事 務 長 補 佐	木 村 登	"	昇 任	海洋研究所総務課庶務主任から
"	"	北 川 嘉 一	"	配 置 換	宇宙科学研究所 主計課課長補佐から
"	学 務 主 任	白 井 照 明	"	"	法学部大学院掛長から
"	司 計 掛 長	根 本 豊 作	"	昇 任	経理部主計課 企画法規掛主任から

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
事務部	給与掛長	北英介	平元. 4. 1	配置換	国立歴史民俗博物館 会計課経理係長から
"	人事掛主任	植木祐輔	"	昇任	人事掛から
"	経理掛主任	渡邊和子	"	"	工学部附属 総合試験所会計掛から
地理	事務主任	鎌滝道子	"	"	事務部庶務掛主任から
地物	事務室主任	渡邊和子	"	"	数学から
動物	"	増田曙子	"	"	人類から
事務部	事務官	朝野英彦	"	配置換	地理から
"	"	安部秀明	"	"	臨海から
数学	"	杉本美也子	"	"	用度掛から
植物	"	山谷弘美	"	"	化学から
人類	"	塩谷祥子	"	"	地物から
化学	"	真原節子	"	"	庶務部人事課から
臨海	"	山崎泰生	"	"	附属病院医事課から
事務部	"	高橋喜博	"	採用	実務研修生から
地物	"	江本桂子	"	"	"
"	"	古谷具子	"	"	"
"	技官	黒澤聖奈子	"	"	"
情報	"	高田広章	"	"	"
植物園	守衛	東城忠幸	平元. 4. 15	辞職	
事務部	庶務掛長	堀内勉	平元. 5. 1	配置換	東洋文化研究所庶務掛長へ
"	専門職員	小谷昭	"		庶務掛長併任

外国人客員研究員報告

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
化学科	増田教授	中華人民共和国	QI 其 LU 魯	内蒙古大学講師	元. 4. 1 ~ 2. 3. 31	63.7 教授会 了承済みの 延長
物理学科	小林助教授	ハンガリー	JANSZKY, Jozsef	ハンガリー科学アカデ ミー結晶物理研究所 主任研究員	元. 5. 24 ~ 元. 10. 28	
情報科学科	米田教授	中華人民共和国	SUN YONG QIANG 孫永強	上海交通大学計算機 科学科教授	元. 4. 20 ~ 元. 7. 20	
物理学科	大塚助教授	ドイツ連邦共和国	GELBERG, Adrian	ケルン大学原子核物理 学研究所教授	元. 6. 7 ~ 元. 8. 7	

平成元年 3 月 28 日 卒業者

数 学 科

落合 信一郎	国越 健司	桧垣 優徳	粳田 浩司	大森 直人
相馬 正宜	藤井 貴也	東 孝彦	海田 孝之	大野 浩司
奥野 文彦	勝 亮三	河井 真吾	菊池 和徳	清野 和彦
久保 克維	雲 孝夫	郡司 隆央	小宮山 弘樹	櫻井 元之
定方 康明	調 麻佐志	杉本 徹	寶島 格	高野橋 雅之
田中 徹	谷口 雅治	田原 康之	田畑 邦一	鳥巢 浩幸
永矢 純一	平田 昭雄	松田 茂樹	松田 洋	松橋 幸平
真鍋 浩	宮崎 泰彦	武川 崇之	森本 晴夫	森本 祐司
山根 英司	雪吉 雅之	吉村 茂	吉本 力基	

44名

情報科学科

河津 文夫	浅見 賢	池田 拓朗	伊藤 眞理	猪原 茂和
加藤 尚志	金田 秀則	神谷 健一	川崎 優	越塚 登
後藤 洋伸	柴山 潤理	鈴木 清	中野 裕彦	中村 公治
橋本 伊知郎	平手 伸明	深澤 寿彦	前田 薫	溝上 敏文
森 毅	脇 田 建	渡邊 隆		

23名

物理学科

吾妻 広夫	嶋作 一大	高橋 邦明	武井 伸勝	竹内 純一
田村 浩二	中村 浩章	林 宣宏	山内 淳	浅沼 達彦
朝原 治一	池田 裕彦	池橋 民雄	石川 眞一郎	石原 諭
大高明 浩	大友 清隆	大場 竜二	小笠原 弘之	小川 一路
岡本 拓司	奥野 広樹	金田 修明	神田 晶申	草部 浩一
栗原 一嘉	香村 芳樹	小西 秀	小林 礼人	酒井 博隆
坂井 任司	櫻井 信夫	清水 裕子	菅原 祐二	隅野 行成
高橋 宗司	高橋 哲夫	竹谷 純一	角田 達彦	中島 龍也
中村 哲	中山 洋子	長澤 倫康	長澤 豊	長嶋 満宏
永尾 太郎	永野 輝明	成島 武成	野々村 禎彦	野村 晋太郎
羽賀 隆雄	服部 裕司	林 正彦	廣瀬 賢二	福久 良司
堀 健太郎	本間 道雄	真柳 浩太	光岡 薫	宮本 隆志
向井 秀夫	持田 正	矢吹 正典	山岡 典子	山川 央
山田 知之	山名 啓雄	山本 哲史		

68名

天文学科

山下 由香利	阪本 成一	櫻井 直子	鈴木 洋一郎	内海 紀代美
富岡 千幸				

6名

地球物理学科

井門章夫	吾妻瞬一	荒木博志	伊賀啓太	江川尚志
大谷十茂太	尾崎友亮	加藤孝志	草場匡宏	倉本圭
武井康子	武山由花	谷山尚	灘井章嗣	平山義治
保坂征宏	松岡彩子	山中康裕	吉田尚史	吉本真由美

20名

化学科

明山浩一	池上努	一國伸之	岩倉和憲	梅村泰史
大貫裕之	太田仁	金沢孝記	狩野直樹	神野秀雄
草間博之	越田正樹	後藤敬	齊藤常雄	齊藤雅俊
酒井元	坂本章	坂本稔	櫻井英博	笹川紀子
柴田高範	菅井俊樹	鈴木孝廣	高橋亮	佃達哉
都甲圭史	中條彰	長嶺真	西澤裕行	廣川淳
深作貞文	福井賢一	前川智範	松村正浩	真船文隆
三嶋謙二	村上紳一	村田士乃武	毛利大介	森朋有
和賀井晶	渡邊哲也			

42名

生物化学科

浅野桂	内野尚	細田志津子	伊藤ふみ	伊藤隆
臼田佳弘	大石真己	片岡浩介	加藤明彦	川上穰
川岸万紀子	木川隆則	坂本敏夫	佐藤宏宣	鈴木健之
玉野上佳明	中村協子	東島真一	檜原理史	三國修
吉田理恵				

21名

生物学科

(動物学)

尾田正二	宮東昭彦	見學美根子	酒井恵里子	鈴木雅一
深津武馬	福田公子	藤井元	森育枝	山本直之

生物学科

(植物学)

足立直樹	酒井敦	佐々木信吾	鈴木祥弘	山下博史
湯淺高志	頼藤徹也			

7名

生物学科

(人類学)

田邊秀之	長尾吉郎	石井克佳	西澤哲	吉村美紀
渡邊裕二				

6名

地 学 科

(地質・鉱物学)

勝井修二	石田 聡	岩重雄治	大村陽登志	近藤博之
角田睦雄	徳永朋祥	中村智樹	原田 勲	日高徹司
星井宏之	三角幸生	望月健吾		

13名

地 学 科

(地理学)

田崎英樹	井上耕一郎	植田裕之	大野拓也	福山浩史
矢野陽一郎				

6名

合 計 266名

海 外 渡 航 者

(6月以上)

所 属	官 職	氏 名	渡 航 先	期 間	目 的
物 理	助 手	長 山 好 夫	アメリカ合衆国	1. 4. 1 ~ 3. 3. 31	TFTTR (核融合の装置) を使った核融合の研究のため
植 物	〃	佐 藤 直 樹	フ ラ ン ス	1. 4. 1 ~ 1. 10. 2	フランスCEN核研究センターで植物生化学に関する共同研究及び研究連絡を行うため
動 物	〃	武 田 洋 幸	アメリカ合衆国	1. 4. 25 ~ 2. 5. 4	発生生物学に関する研究のため

平成元年度科学研究費補助金採択（内定）さる

本年度科学研究費補助金の交付申請に対し、4月27日付で、本学事務局経由により同補助金の採択（内定）の通知がありました。（特別推進研究(1)、(2)は7月下旬交付内定のため未定）

理学部関係の申請件数および採択件数は次表のとおりで、総額945,950,000円（遺伝子実験施設2,600,000円：外数）でした。

平成元年度科学研究費補助金理学部申請・採択件数一覧表

平成元、6.1現在

区分 研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
特別推進研究(1)	2(1)				
特別推進研究(2)	3(2)				
がん特別研究(1)	1	0	0	0	
がん特別研究(2)	3	2		2	66.7%
重点領域研究(1)	22	20		20	90.9%
重点領域研究(2)	53	25		25	47.2%
総合研究A	21(7)	7	8	15	71.4%
総合研究B	5	4		4	80.0%
一般研究A	27(12)	7	14	21	77.8%
一般研究B	64(13)①	12①	13	25①	39.1%
一般研究C	97(18)	31	15	46	47.4%
奨励研究(A)	69①	34		34	49.3%
試験研究(1)	6(2)		2	2	33.3%
試験研究(2)	24(3)	5	2	7	29.2%
奨励研究(A)特別研究員	57(37)	33	14	47	82.5%
合 計	454(95)②	180①	68	248①	54.63%

昨年は、申請件数424件、採択件数246件、採択率53.07%であった。
 () 継続申請：内数 ○遺伝子実験施設：外数

東京大学職員の永年勤続者表彰

平成元年3月31日付で、定年退職される下記職員に対する総長からの表彰状・記念品が3月24日(金)正午、学部長室において藤田学部長から伝達された。

平成元年4月12日(水)午後3時から神田学士会館において永年勤続者(20年勤続)表彰式があり本学部では下記の方々表彰を受けた。

記

化 学 中 田 賢 次
 生 化 宮 崎 敏 夫
 動 物 長 田 美 子
 地 質 原 村 寛
 鉱 物 梅 村 久 子
 植 物 園 甲 斐 正 人
 臨 海 石 渡 綾 子
 事 務 部 星 圭 介

記

物 理 蔵 蘭 希 望
 化 学 山 本 学
 事 務 部 根 本 豊 作
 " 北 英 介
 " 若 林 則 子
 " 安 田 正 子

理学部長と理職の交渉

3月20日、4月10日に理学部長と理学部職員組合（理職）の定例の交渉が行われた。また、3月10日には理学院計画についての緊急学部長交渉（和田理学院計画委員長が出席）が行われた。その主な内容は次のとおりである。

1. 技術系職員の組織化問題について

3月20日の交渉では、4月1日には技術系職員の組織化を実施しないことが研究所長会議と学部長会議で了承されたのを受けて、理職がすでに組織案を提出してある理学部の対応を問うたのに対し、藤田学部長は、組織化は5月1日をめどに進めると聞いている、組織化に必要な組織規定は企画委員会では了承されている、私は3月31日までであるが、それを出すタイミングは全学の状況を考えて決めると答えた。さらに、3月7日に事務局長から下りてきた4月1日以降組織化を進めるという通知をどう受けとめているのか問うたのに対し、受け取っているが、期限が記してない通知でもあり、これに応じてただちに組織規定を出すようなことはしないと答えた。理職は、組合との合意なしで、組織規定を本部に出さないようにと要求した。

4月10日の交渉では、理職が東京大学職員組合が出した統一要求を示し、理学部でもこの線に沿った組織化を行うように要求したのに対しては、和田学部長は、今初めて見るものである、これから検討したいと答えた。また、新しく小口委員会を引き継ぐ、田沢評議員は、技術系職員の人達とよく話し合い、働きがいのある職場作りのために皆さんの知恵をお借りしたい、学部長とも相談して今まで蓄積されたものを引き継いで行きたいと抱負を述べた。

2. 理学院計画について

3月10日の緊急学部長交渉では、理職が「第3次素案」に反対する決議を手渡して、「第3次素案」の撤回と改革論議の根本的な再検討を要求したのに対して、和田計画委員長は身分制としての助手制度は必要であると明言したり、大学職員の昇格の劣悪さの原因は何かと、逆に組合側に質問するといった問題発言を繰り返し、理職の指摘に理解を示さなかった。3月26日の交渉で、和田計画委員長は、教授会では、教養学部・付置研究所との関連、助手制度の見直しについて意見

が出たのみで、挙手による評決の結果、賛成多数で今後一年かけて「第3次素案」を基に検討を続けることで了承されたと述べた。これに対して、理職は助手制度の見直しを理学院計画に盛り込むべきであると主張した。和田委員長は身分制度としての講座制の変更はしない、全国大学に波及する事であり、問題が大きすぎると答え、助手制度は理学院とは切り離して議論すべきであるとの考えを示した。また、理職が定員増は理学院では不可欠であると主張したのに対しては、定員増なしには理学院表現はあり得ないと答えた。4月10日の交渉では、「第3次素案」を了承した3月15日の教授会直前に行われた素案の変更点のうち、学外者を含めた広域理学院の研究成果評価委員会の設置について、大学の自治の観点等からして問題があると理職が指摘したのに対し、和田学部長は、学外者による評価は必要であり、教授会は評価委員会の決定を覆す事ができると答えた。さらに、和田学部長は理学院調査費として概算要求を出すこと、10月末に「第3次素案」を基にした原案を出したいと発言した。

3. 昇格改善要求について

理職は事務職員の昇格改善について、教室事務は裾野の広い職場であり組織化には馴染まないことを指摘し、たくさんいる3級の高位者俸者の昇格を、専門職員として学部につけることで進めてもらうよう要求した。また、事務主任の6級昇格の見直しについて、事務長は、早く実現するようにお願いはしているが、従来はやめる1年前であると答えた。理職が、女性の事務職員は昇格において差別されており、在級10年以上でないとポストに付けないことを訴え、やめる2年前昇格の最低限実現に希望は持てるのかと問うたのに対して、事務長は何ともいえないと答えた。秘書の昇格が3級止まりであることから、その専門性を考慮して専門職とすることで秘書の昇格改善を図って欲しいとの要求に対して、和田学部長は専門職は無理だと思いと述べた。技官の昇格改善については、組織化とは別に行うように要求した。

4. 教務職員の助手化について

理職が、教務職員の頭打ちの実状を資料を提示して訴え、できるだけ早く助手化して、救済するよう要求

したのに対して、和田学部長は、低賃金であるのはわかった、やめる半年前に助手化するよう努力していると答えた。半年前でなくもっと早い時期にできないのかと問うたのに対しては、待遇改善での助手ポストの一次的流用としては半年前が限度である、それ以上は普通の助手としての扱いになると答えた。

5. 行(二)技能職員の4級昇格について

事務長は、生化の人の昨年度の昇格要求が通らなかった理由は在級年数の不足であると述べたのに対し、理職は、化学の人の昇格条件は完全に満たされているので昇格を実現するよう要請した。これに対しては、事務長は、そのように申請すると答えた。

6. 賃上げ問題、春闘について

同じ国家公務員でも他省庁では退職する時に7、8級は当然であるのに、大学職員はようやく、退職時に3級であるという実態が解消されたところで、4～6級でやめるという状態であると大学職員の低賃金を訴えたのに対して、和田学部長は、なぜ格差があるのかと、理職に問うた。理職は、他省庁では上位級をとってくるための努力をし、方策を考えて実現してきている、大学職員の劣悪な待遇は、当局の怠慢が原因であると答えた。さらに、理職は事務長制（事務長は7～

8級）の理学部と事務部長制（事務部長は8～9級）の工学部などの間には、全体として待遇格差がある、また他省庁では専門職員を利用して上位級を追求している、などの事務系職員の例をあげ理学部当局の工夫がたりないと訴えた。大学職員の待遇が遅れている事実を踏まえて、学部長は文部省なり、総長への上申等を要請したのに対して、和田学部長は、文部省にはどうやって働きかけたらよいかかわからないが、総長には上申すると答えた。

7. 研修費について

理職が、63年度理学部予算の中で連絡経費の内、事務・技術職員研修費として299,000円計上されたが、どの様に使われたのか内訳を問うたのに対し、事務長は調べてお知らせすると答えた。理職は、技術職員の内この研修費を使えるのは名大プラズマ研究所、分子科学研究所、高エネルギー物理学研究所主催の技術研究会へ出張する人だけであり、他の分野の出張はその研修費を利用できない。また、旅費が出ない人は有給休暇をとって研修している、このような技術職員にも研修費も出せるようにしてほしいと要請した。これに対し、和田理学部長はすぐにやるところでは言えないが、検討すると答えた。

各号館（運営委員）長名簿

（平成元、4、1現在）

号館名	所属	職名	氏名	内線番号	任期
1	物理	教授	井野正三	4208	元. 4.1 ~ 2. 3. 31
2	人類	教授	遠藤萬里	4483	元. 4.1 ~ 元. 7. 31
3	天文	教授	堀源一郎	4257	元. 4.1 ~ 2. 3. 31
4	物理	教授	壽榮松宏仁	4127	元. 4.1 ~ 2. 3. 31
5	数学	教授	増田久弥	4049	元. 4.1 ~ 2. 3. 31
7	情報	教授	後藤英一	4113	元. 4.1 ~ 2. 3. 31
化学	化学	教授	岩村秀	4356	元. 4.1 ~ 2. 3. 31

（2号館：4ヶ月交替 動物 → 地理 → 植物 → 人類 → 動物）

教室主任・施設長等名簿

(平元・4・1現在)

教室・施設名等	教室主任 施設長等氏名	電話番号	自宅電話番号 (緊急連絡先)
数 学 教 室	増 田 久 弥	4049	
情 報 科 学 教 室	國 井 利 泰	4116	
物 理 学 教 室	鈴 木 増 雄	4193	
天 文 学 教 室	堀 源 一 郎	4257	
地 球 物 理 学 教 室	熊 澤 峰 夫	4310	
化 学 教 室	岩 村 秀	4356	
生 物 化 学 教 室	酒 井 彦 一	4396	
動 物 学 教 室	嶋 昭 紘	4441	
植 物 学 教 室	安 楽 泰 宏	4461	
人 類 学 教 室	遠 藤 萬 里	4483	
地 質 学 教 室	島 崎 英 彦	4514	
鉱 物 学 教 室	武 田 弘	4543	
地 理 学 教 室	鈴 木 秀 夫	4572	
臨 海 実 験 所	高 橋 景 一	4426 0468(81)4105~7	
植 物 園	黒 岩 常 祥	(814)0138~9	
地 球 物 理 研 究 施 設	玉 尾 孜	4582	
分 光 化 学 セ ン タ ー	増 田 彰 正	4349	
中 間 子 科 学 研 究 セ ン タ ー	上 村 洸	4225	
地 殻 化 学 実 験 施 設	脇 田 宏	4621	
素 粒 子 物 理 国 際 セ ン タ ー	山 本 祐 靖	4177	
天 文 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	内 田 豊	4260	
遺 伝 子 実 験 施 設	堀 田 凱 樹	4144	
学 部 長	和 田 昭 允	4000	
評 議 員	久 城 育 夫	4506	
評 議 員	田 澤 仁	4457	
事 務 長	野 島 博	4001	
事 務 長 補 佐 (総 務 担 当)	木 村 登	4002	
事 務 長 補 佐 (経 理 担 当)	北 川 嘉 一	4004	
学 務 主 任	白 井 照 明	4003	

編 集 後 記

皆様、今回の理学部広報の表紙はいかがでしょう？ 少しでも親しみやすく読みやすい広報にできないものかと編集委員会で考え、一新したものです。2色刷りとなったこともありますが、これまでのものよりモダンで親しみやすいものになったのではないかと、編集子は自己満足しております。表紙などのデザインについては人によって好みも異なり、おほめいただく方もあれば元のままで良いという方もおられると思いますが、ご意見を承りますればと存じます。

理学部広報の存在意義につきましては前編集委員長の高橋先生（植物）の20巻4号の編集後記にもありますように意義を認める人認めない人、いろいろおられるとは存じますが、理学部内のコミュニケーションの場としてそれなりの役割を果たしてきたことは明らかです。また昨年より、現理学部長 和田昭允先生の発案により理学部研究ニュースの欄が新設されました。これは広報を内部のコミュニケーションの場としてだけでなく、積極的に外部の人に東大理学部について知っていただくという宣伝誌の側面も強めようと言うことを意図しているわけです。実際、新聞社、通信社の記者の方から、この研究ニュースをきっかけとして記事を書かれたということを10余件聞いております。各教室の主任の先生方にはお手数をおかけすることになりますが今後とも積極的に研究ニュース欄にご投稿下さいますようお願い申し上げます。

世の中はいま宣伝の時代だそうで、多くの国立研究所からはカラー印刷の大変立派な広報誌が発行されております。貧乏世帯である我が理学部には真似のできないことですが、三鈴印刷のご協力の元に表紙の2色刷りと若干の紙質向上を計ることができました。このグレードアップにふさわしいように内容もより充実できればと意気込んでいる次第です。

(佐藤)